

<p>新規就農者の素顔</p>  <p>氏名：村井 堅司（むらい けんじ） 住所：加古郡稲美町加古 年齢：39歳（S51.1.11生）</p>	<p>農業経営の状況（現在）</p> <p>農地：70a 施設：ビニールハウス1,476㎡ 経営内容： ・いちご13a（高設栽培） ・ブルーベリー10a 労働力：本人 出荷先：JA直売所、スーパー</p>  <p>いちご葉かき作業の様子</p>
<p>就農から現在まで</p>	<p>就農で良かった点、苦労した点</p>
<p>H23年8月 離職 H23年9月～H24年8月 県立農業大学校で新規就農実践農場 研修（1年間） H24年9月 就農 H24年10月 ハウス及び高設ベッドを整備し現在 に至る。 H27年中に ハウスを増設する予定</p>	<p>○良かった点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お客さんからダイレクトに反応があり、やりがいになる。 <p>○苦労した点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予想以上に労力が必要であった。 ・天候に左右されて、なかなか計画通りに進まなかった。
<p>農業をめざした動機</p> <p>デザイン関係の学校を卒業後、デザイン事務所を起業し、家具職人をしていた。一方、祖父母の農地があり、利用されなくなったので、兼業（水稻）で農地を管理し始めた。</p> <p>35歳の時、兼業で農地の管理をするよりも、専業で起業することを決意し、本格的に農業経営をすることにした。</p>	<p>後輩へ贈る言葉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修は長い方が良い。しっかり技術を身につけてから独立すべきである。 ・初年度から計画通りに売上が出来ると思ったら大間違い。最低1年半分の生活費＋運転資金が必要である。 ・気力と体力の両方が必要。